



第3回エコツーリズムフォーラム 2014

Ecotourism Forum third 2014

～瀬戸内海国立公園指定80周年を迎えて～

瀬戸内海の活性化に向けた新たな展開 ...
エコツーリズムの果たす役割

2014年3月8日(土) 13:00 - 16:30
リージャスひろしまハイビル21(広島市中区銀山町3-1)

主催:瀬戸内ツーリズム推進協議会

構成:広島県、呉市、廿日市市、(一社)瀬戸内海エコツーリズム協議会

後援:環境省中国四国地方環境事務所、EPOちゅうごく[環境省中国環境パートナーシップオフィス]、
中国経済連合会、NPO法人日本エコツーリズム協会、一般社団法人 日本旅行業協会、
株式会社中国新聞社、学校法人鶴学園広島工業大学、
学校法人ひらた学園IWAD環境福祉専門学校

協力:NPO法人 自然環境ネットワークSAREN、NPO法人 自然と釣りのネットワーク、
日本ミクニヤ株式会社、総合技研株式会社、ひろでん中国新聞旅行株式会社、
株式会社近畿日本ツーリスト中国四国、株式会社グローバルコスモ

※このフォーラムは、環境省平成25年度エコツーリズム地域活性化支援事業の一環として、運営しております。

※このフォーラムは、瀬戸内海国立公園指定80周年記念パートナーシップイベントの一環として、運営しております。

瀬戸内ツーリズム推進協議会
【構成メンバー】 広島県、呉市、廿日市市、
(一社)瀬戸内海エコツーリズム協議会
<http://setonaikai-ecotourism.jimdo.com/>
〒734-0013 広島県広島市南区出島1-11-14
TEL 082-259-3171 FAX: 082-259-3372

瀬戸内海の自然・文化・歴史...守り、育むエコツーリズム

本協議会は、「瀬戸内海の生態系景観を見つめ、自然と文化を探り、多様な自然を守る」ことを理念として活動しています。

また、エコツアーを構築、実践することで、自然環境の保全・人材の育成・地域振興・新たな観光ビジネスの創生を目指しています。

第3回エコツーリズムフォーラムでは、協議会が掲げる理念や具体的な活動内容を地域の皆様方に広く知りたいこと、また、瀬戸内海が国立公園に指定されてから80周年を迎えることを契機に、瀬戸内海の活性化を促す新たな社会システムのあるべき姿を議論し、その中で、エコツーリズム活動が果たす役割や貢献を考えること狙いとしています。

本フォーラムが瀬戸内海におけるインターパリターの育成や、エコツーリズムネットワークの拡大に繋がることを願っております。



Program

13:00

13:15

13:15

14:30

14:40

16:20

16:20

16:30

17:00

19:00

■オープニング

開会挨拶 上嶋英機 瀬戸内ソーリズム推進協議会 会長/広島工業大学院教授
来賓挨拶 築島 明 環境省中国四国地方環境事務所 所長

■第1部 「国内外のエコツーリズム活動の実態」

活動報告
「瀬戸内ツーリズム推進協議会活動及びフランス視察報告」
上嶋 英機 瀬戸内ソーリズム推進協議会 会長(広島工業大学院教授)
基調講演
「フランス国のエコツーリズムの実態」
イザベル・デュフ フランス観光開発機構 副代表

■第2部 パネルディスカッション

「瀬戸内海の活性化に向けた新たな社会システムの構築と
エコツーリズム活動が果たす役割」
～瀬戸内海国立公園を基軸とした活用と維持～
コーディネーター 上嶋 英機 瀬戸内ソーリズム推進協議会 会長/広島工業大学院教授
パネリスト イザベル・デュフ フランス観光開発機構 副代表
 戸田 常一 広島大学大学院社会科学研究科 教授
 市原 信男 (一社)瀬戸内海エコツーリズム協議会 顧問
(元 環境省中国四国地方環境事務所 所長)
 山城 滋 中国新聞社 編集局長
 藤本 正明 NPO法人自然と釣りのネットワーク 理事
～瀬戸内海の活性化に向けた新たな社会システムの構築と
エコツーリズム活動が果たす役割～

■クロージング

閉会挨拶 富田 嶽穂 広島県商工労働局海の道アドバイザー担当課長

■交流会

(注:フォーラム終了後、会場近く(京橋川沿い)のカフェテラスで、オープンな雰囲気で
交流会を開催いたします!是非、ご参加ください!(17:00-19:00 参加費5,000円))

Profile



イザベル・デュフ Isabelle Deuff フランス観光開発機構 副代表

フランス、ブルターニュ地方生まれ。1999年パリ政治学院卒業。1999から2001にかけて日本で留学。その後2年間、在韓国フランス大使館経済部でマーケティング＆コミュニケーション部門に従事した後日本に戻り、2006年よりフランス政府観光局にプロモーション・デベロップメントとして就任。2010年には副代表に就任し現在に至る。主たる職務は、日本市場におけるフランスのプロモーション展開である。一般、業界およびプレス向けのマーケティング、並びに市場動向の調査分析を担当している。



戸田 常一 Toda Tsunekazu 広島大学大学院社会科学研究科 教授

1951年、大阪市生まれ。工学博士、京都大学工学部助手・講師・助教授を経て、平成元年創設の広島大学・地域経済研究センターに赴任。現在は、マネジメント専攻に所属し、地域政策、地域振興の教育・研究に従事する。日本地域学会や瀬戸内海研究会などの学会・団体役員(理事)、広島県国土利用審議会や東広島市都市計画審議会の委員(会長)などを務める。著書として『瀬戸内海を里海岸に－新たな視点による再生方策－』(2007)、『瀬戸内海の文化と環境』(1999)(共に分担執筆)などがある。



市原 信男 Ichihara Nobuo 『一社)瀬戸内海エコツーリズム協議会 顧問
(元 環境省中国四国地方環境事務所 所長)

1953年東京生まれ。東京教育大学林学科卒後、1976年環境庁入庁。全国の国立公園等に勤務、米国国立公園局1年間派遣。1999年国連持続可能な開発委員会での「持続可能な観光開発、エコツーリズム」に関する国際ワークプログラムに参加。その後、民間活動支援室員を経て、山陽四国地区自然保護事務所長(のち中国四国地方環境事務所長)の4年半、瀬戸内海国立公園指定70周年及び各種事業を指揮。2010年中部地方環境事務所長として、名古屋での生物多様性条約COP10を終え、2011年からアジア航測(株)にて、全国の自然環境調査等を担当。



山城 滋 Yamashiro Shigeru 中国新聞社 編集局長

山口県生まれ。1975年に中国新聞社に入社し、編集委員会長、論説主幹、防長本社代表を経て2014年3月から編集局長。自治・瀬戸内海・農業・農村問題などをテーマに取材活動をしてきた。2007年には、取材チームをつくり「ムラは間う」を连载し、農の風景が縮小する農山村の現状を報告した。



藤本 正明 Fujimoto Masaaki NPO法人自然と釣りのネットワーク 理事

1954年、山口県柳井市に生まれる。大学卒業後、昭和52年4月から山口県小学校教員。青年の教員時代を経て、平成22年3月に退職する。その後、スキー指導員、キャンプ指導員として野外活動の指導に携わる。平成18年にスキー・バダイビングを始め、周防大島の二ホンアワサンゴが生息する海域の保全や地域振興に取り組む。平成25年2月には周防大島南沖が瀬戸内海初の海城公園「周防大島海城公園」に指定される。現在、NPO法人自然と釣りのネットワーク、NPO法人海藻研究会の理事を務める。



上嶋 英機 Ues ma Hideki 瀬戸内ソーリズム推進協議会 会長

1944年、福井県敦賀市生まれ。工学博士。1972年、通商産業省工業技術院の国立研究所に入所(現・工業技術総合研究所)以来、瀬戸内海の環境研究に従事。2005年より広島工業大学大学院教授にて就職。2010年、「一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会」理事長に就任。2011年、「瀬戸内ソーリズム推進協議会」会長に就任。所属団体に、「一般社団法人阪渾海環境共生研究・実践人材育成コンソーシアム・ニア」理事長、「宮島ラムサール条約連絡協議会」会長など。

【瀬戸内ソーリズム推進協議会の活動】

1. 瀬戸内海国立公園における「瀬戸内海エコツーリズム」の構築事業
事業化の促進を図るために、エコツーリズムの本格的実施を行っています。
 - ・宮島エコツーリズム(外国人旅行者向け・国内旅行者向け)
 - ・安芸灘諸島エコツーリズム
 - ・防予・諸島エコツーリズム
2. エコツーリズムのための人材育成事業
人材の養成研修「エコ塾」の充実図るために、養成研修の実践的運用をおこなっています。
3. エコツーリズムのためのインフラ整備計画事業
エコツーリズムのためのインフラ整備について、検討・提案を行っています。
 - ・エコツーリズムビューサンターカーの機能提案
 - ・未利用施設の活用による地域振興の提案
 - ・ネットワークの構築のためのインフラ整備提案

